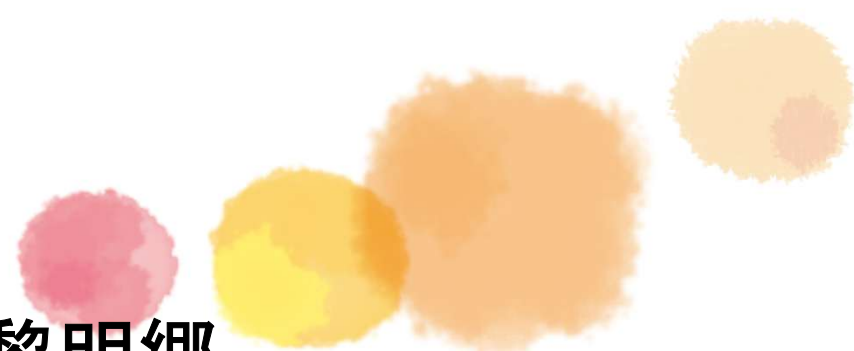


言語聴覚室の紹介



一般財団法人黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター



目次

- 言語聴覚室の業務
- 摂食嚥下障害への取り組み
- 言語聴覚室の教育体制
- 職員の声
- 室長から

言語聴覚室の業務①

当院の言語聴覚士（ST）は、主に失語症・運動性構音障害・摂食嚥下障害・高次脳機能障害の患者様へリハビリを提供しています。訓練のほかに、摂食嚥下障害の患者様やご家族へ必要に応じて食事指導を行っています。どのようにすれば安全に食べられるのか、といった食物の選択方法や調理方法、食べる際の注意点などを詳しく説明します。

また、外来では言語訓練はもちろんのこと、言語・高次脳機能障害に対する評価を行っています。最近では、摂食嚥下に対しての評価依頼も多く、食事形態や環境の調整方法などの具体的な指導も行っています。

言語聴覚室の業務②

➤ 急性期病棟の業務

急性期の業務は、主に嚥下評価です。入院の早い段階で嚥下評価を行い、食事が食べられるか、どのような形態が食べられるかを判定します。意識レベルを確認しながら、安全に食事が食べられるように配慮しています。全身状態も不安定であるため、常に看護部門と連携を取りながら、何度も評価を行っていきます。

➤ 回復期病棟の業務

回復期では、患者様それぞれにあった訓練プログラムを取り入れていきます。機能向上はもちろんですが、退院後の生活をイメージして、実用的な訓練を行うように意識しています。リハビリは患者様にとってつらいものですが、楽しい訓練となるように配慮して訓練を行っています。

摂食嚥下障害への取り組み①

脳卒中患者さんの約半数に、摂食嚥下障害があります。今後のリハビリが円滑に進むよう、早期から安全に栄養を確保することが大変重要です。当院では、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会の嚥下調整食分類に対応した6種類の食事形態を準備し、患者さんの状態に合わせた食事提供を行っています。



常食



移行食



ソフト食



軟食



ペースト食



ゼリー食

摂食嚥下障害への取り組み②

当院では、医師の指示のもと、入院直後に言語聴覚士が嚥下評価を行い、内服や経口摂取が可能かどうかを判断しています。必要に応じて造影検査（VF）や内視鏡検査（VE）を行い、方針を決定します。

さまざまな職種と連携し、検査結果から食事場面での注意点について話し合い、食事形態や環境の調整、指導を行っていきます。

また、外部からの摂食嚥下に対する講演依頼を通して、一般の方や介護職の方に対しての指導や啓蒙活動を行っています。



言語聴覚室の教育体制①

➤ 新人教育

指導者との二人三脚が基本となります。初期は、評価と訓練の見学をしてもらいます。教科書で学んできたことを実践場面と結びつけるように指導し、少しずつ検査を実施してもらいます。個々のペースに合わせ、見学と実施を繰り返しながら練習を進めていきます。訓練については、指導者と一緒に評価し、基本プログラムが完成した後、担当として患者様の訓練をしてもらいます。しばらく、二人三脚が続きますが、その中で様々なものが体験できるように配慮していきます。評価と訓練は修得したもののから独り立ちし、これを繰り返していきます。

言語聴覚室の教育体制②

➤ 教育プログラム

言語聴覚室では、以下のような教育プログラムを設けています。二人三脚が終わってからも、個々のペースに合わせてスキルアップできるように、配慮しています。

- ＜ステップ1＞社会人、職員、STとして望ましい態度や行動をとることができる
- ＜ステップ2＞基本的な評価を実施し、評価結果から問題点を抽出し目標を設定できる
- ＜ステップ3＞対象者の全体像をまとめ、言語聴覚療法の計画を立案し、実施することができる
- ＜ステップ4＞カンファレンスで適切な報告ができる
- ＜ステップ5＞退院に向けた準備ができる（家族指導・書類など）
- ＜ステップ6＞指導ができる（後輩・学生に対して）
- ＜ステップ7＞自分の考えをまとめて発表できる（学会・部署内の研修会など）

＊各項目それぞれに具体的な目標を設けています。

言語聴覚室の教育体制③

➤ 知識・技術の向上

院内外への勉強会へ参加はもちろん、患者様に対して全員が一貫した高いレベルの訓練を提供できるよう、技術指導や勉強会を行っています。

また、長年にわたり、失語症をはじめとする種々の障害の研究を行っています。全国の学会への参加や発表を行うことにより、常に最新情報を取り入れるように努めています。



言語聴覚室の資格取得への取り組み

現在、当院の言語聴覚士が取得している資格は以下のとおりです。患者様への質の高いリハビリテーションを提供するため、資格取得に向けたスタッフの意欲を支援しています。

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
臨床神経心理士



職員の声①

➤ 言語聴覚士 2年目

入職してから回復期の担当となり、嚥下障害、失語症、高次脳機能障害など様々な疾患に対しリハビリを行ってきました。先輩方からのサポートもあり、少しずつですが成長を実感できています。患者様一人ひとりと向き合い、適した訓練を行うのは、責任が問われ大変だなと思うこともありますが、それ以上に回復し退院していく患者様をみるとリハビリを頑張ったよかったなと励みになります。目に見えない障害に関わる職業だからこそ、患者様に真摯に向きあい、わからないことは積極的に勉強し、今後もスキルアップを目指して頑張っていきたいです。

職員の声②

➤ 言語聴覚士 13年目

ことばや飲み込みのリハビリは、その方らしい生活を取り戻す大切な一歩です。構音や会話の練習だけでなく、嚥下訓練で「食べる楽しみ」を支えることも、生きる上で欠かせない支援だと感じています。当院は急性期・回復期・外来と、発症から維持期まで幅広い時期の患者さんに関わることができ、長い経過を通してリハビリの成果を見守ることができます。また、研修や学会参加の機会も多く、自己研鑽を続けられる環境です。医師・看護師・リハビリ職など医療スタッフが一丸となって患者さんを支えています。小さな変化と一緒に喜び合える瞬間が、この仕事の一番の魅力です。

充実した環境の中で

忙しく日々を過ごしていますが、スタッフ一人一人が自分の役割に誇りをもって業務にあたっています。人数は決して多くはありませんが、病棟の中での役割は非常に大きく、忙しさの中にも充実感があります。少人数だからこそ、何でも話し合い不安や疑問を解決できる環境にあると考えています。みなさんの不安や疑問を率直に共有し、一緒に解決していきたいと思っています。

言語聴覚士としてしっかりと技術を身につけたい方、お待ちしております！



言語聴覚室長 盛 亨子